

# 西宮ロット・エ・ガロンヌ交流市民の会

2011. 12. 14 VOL. 98 発行者：会長 森田 正樹／編集：広報部

## アジャンスケッチ旅行会

### スケッチ

れっきとした絵画（タブロー）の製作ではなく、手軽に早描きで写生することをスケッチという。早描きには、鉛筆1本が一番手っ取り早いですが、無彩色では「色気」が無い。野外のスケッチには水彩画がお勧めだ。何よりも手軽なのがよい。欲張って色を一杯使って塗りこむことを求めない野外スケッチ用には、少々の水と軽い水彩パレットが一枚あれば充分である。

もともと、水彩画（透明水彩画）では、グワッシュ（不透明水彩画）や油彩画などと違って、色をあれこれコテコテと塗り重ねることは禁物である。すぐれた透明水彩画を作るためには、「何時筆をおくか」が勝負で、絵具は塗り重ねれば重ねるほど、色調が濁ってきたなくなってしまう。というような意味からも、時間が限られる日帰りのスケッチ旅行などには、逆らわず水彩絵具を持って行くことにしよう。

以上、水彩は早描きに便利という意味での所感であるが、誤解を避けるために付言すれば、「それ」はタブロー制作には向かないというワケでは決してない。……。アレ、冒頭からいきなり脱線してしまっておめんなさい。



### スケッチ旅行（報告）

行き先：神戸布引ハーブ園

日 時：平成23年11月23日（日）朝9時JR三宮駅  
中央集合、午後4時頃解散

参加者：岡田順子、足立洋子、古武由紀子、春重旗子、  
越智強（他2名は急用で欠席）

収 穫：(1)当日は秋晴れ、小春日和のもとでの楽しいスケッチ。

(2)行列が出来るというレストラン「ハーブ・ダイニング」での美味しいビュッフェランチ。

(3)愉快なお仲間達との気のおけぬ一日。

(4)ロープウェイ途中駅にあるガーデンエリアでの数々の秋色ハーブ鑑賞。

(5)各自、「自画自賛」の作品の出来ばえ。



（越智 強）



## フランスのクリスマス飾り

この季節になると、友人だったマリアリクスを思い出します。彼女は年に似合わない高貴さと存在感とを身につけた、20代後半で既に3人の子どもを持ったフランスでは珍しい専業主婦でした。現代の機器で沸かしたコーヒーを、わざわざ純銀の磨きこまれたピカピカのコーヒーポットに移し変えてコーヒーカップに注いでくれる、フランスの貴族的な生活を垣間見せてくれる人でもありました。朝、子どもを幼稚園に送り出した後、招かれてここのコーヒーと焼きたてのクロワッサンをお手伝いさんにサービスされると、私まで公爵夫人になったかのような幻覚を抱きそうになるくらいでした。

彼女はロンドンの大学に3年も留学していたのに、「英語話せますか？」と質問していた私に、1年以上も英語を話せることを隠していた“超保守的フランス人”でもありました。本来なら、距離を置かれてもおかしくない外国人である私によく声をかけてくれた理由は、今から思うと「留学中にロンドンで食べた寿司は本当にヘルシーでお洒落で美味しかった！」からだと思います。いつも取り澄ました冷静なマリアリクスも、この発言のときばかりは、無邪気な笑顔だったように記憶します。ロイヤルファミリーのような服装や家の内装を好む彼女宅にたびたびお邪魔させて頂いていた私は、とにかく観察をしていました。子ども達も普段着からして、クラシカルなデザインの革靴を履き、100年近く前から同じような服装を皇室ご一家がされていそうな感じです。衣装をすげかえれば、フランス革命前のヴェルサイユ宮殿で生活していてもおかしくないような気品が常に漂っていました。

12月に入りクリスマスも近くなると、郊外の新興住宅地の一戸建てでは、田舎の広い敷地を生かしたサンタクロースやトナカイなどの電飾で、楽しい飾りが目を引きまします。家の装飾には余念のないはずのマリアリクスの家（瀟洒な20世紀初頭のアパートマン）には電飾はおろか、クリスマスツリーも見当たりません。あるとき「電飾のクリスマス飾りはしないの？」と、思い切って質問してみました。「ああ。あれは、アメリカ人がやり始めたものなの。フランス人には関係のないものよ」。キラキラの電飾飾りをした家は、まるでフランスではない、迷惑だ、と言わんばかりの表情でした。さらに、「クリスマスツリーは？」と尋ねたところ、「あれは、フランスのカトリックの伝統的なものではないのよ。我が家のクリスマスには関係ないものだよ」と、思いもよらない答えにびっくりしました。大半のフランス人、特に子どものいる家庭では（本物であれ、プラスチック製であれ）もみの木にたくさんの飾りを施します。先日、神戸のIKEAに行くと、数量限定で本物のもみの木を売っていましたが、フランスのIKEAも同様でした。

フランスでは全ての花屋、スーパー、ホームセンターに本物のもみの木が売られ、また、町の一角に大きなスペース（駐車場）を借りて様々な大きさの大量のもみの木を売りにくる業者もいます。調べてみると、もみの木を飾る習慣は元々ゲルマン民族の土着信仰が発端で、その後キリスト教信仰と混ざりドイツやフランスのアルザス地方でクリスマスにもみも木を飾るようになったようです。イギリスにおいての最初のクリスマスツリーは、ヴィクトリア女王がドイツ出身の彼女の夫のためにツリーを飾ったことが広まったそうです。アメリカに最初にクリスマスツリー



の習慣を持ち込んだのも、やはりドイツ系移民だったようです。では、マリアリクスの言う“フランスのカトリックの伝統的なクリスマス飾り”とは一体何でしょうか？

それは“クレッシュ”です。ご存知でしょうか。“クレッシュ”とは、キリスト生誕の様子をあらわした模型のことです。クリスマスシーズンになると、カトリックの教会に飾ってあります。



この時期フランスでは街角でも等身大の個性あふれるクレッシュが各地で見られます。元々クレッシュは、カトリックの本場イタリアの教会が発祥のようです。フランスでは1789年の革命後にプロバンス地方の各家庭内でしつらえたクレッシュが、すぐにフランス全土へ広まったようです。クレッシュに飾るための、粘土を焼いて作られた小さな人形のことを“サントン人形”と言います。“サントン”とはプロバンス語で小さな聖人という意味だそうです。プロバンス地方のサントン人形は、キリストと聖母マリアと東方三博士のみならず、

プロバンス地方の伝統的衣装を身にまとった様々な職業の村人達が生き生きと生活している様子をジオラマにしています。親から子へ伝わる人形を、“キリスト生誕場面”という基本を押さえたら、後は飾る人の好みそのまま表現されます。人形の大きさも2～3センチのものから20センチ程度まで、日本のひな人形などと同じく店や作り手により個性が異なります。

「これはね、毎年すこしずつ買い足して、自分の好きなシーンを表現するのよ」と、マリアリクスは語りました。1.5メートル四方のテーブルに布や色画用紙などを使って、村を表現しています。「子ども達と一緒に、はさみを使って切り貼りし、人形を飾るのはとても楽しいのよ」とのことでした。その後も、保守的かつ伝統的生活を好むフランス人の家では、確かにクレッシュはあってもクリスマスツリーは見かけませんでした。このような家は少数派のようですが……。

クレッシュは12月6日から2月2日まで飾ることが一般的で、12月24日まではクレッシュ内の家畜小屋のわらの中にキリストはいません。25日の生誕の日に、キリストの人形はおごそかに、大事に置かれます。私は、どちらかといえばクリスマスツリーの方が好きだったので、これを基本にして飛び出す絵本タイプのお手軽クレッシュと一緒に飾ってみることにしました。予防接種とホメオパシーの二本立ての我が家のインフルエンザ対策と同じく（会報2011年10月号参照）、クリスマス飾りも二本立てでした。

もし皆さんの中で、11月後半からクリスマス時期にかけてフランス旅行へ出掛けるご予定あれば、“クレッシュ基本セット”をお土産に買うのはいかがでしょう。粘土製の伝統的なサントン人形の専門店を見つけるのは難しいですが、スーパーならびにデパートやホームセンターでは、持ち帰りも楽なプラスチックなどで出来たクレッシュ（キリスト、聖母マリア、東方三博士、天使、複数の家畜と家畜小屋）が日本円にして数千円で売られています。別売の藁（1ユーロ程度）を買い足せば、本格的なクレッシュの出来上がりです。フランスの伝統的クリスマス気分を楽しめますよ。

こうして私は、日本の伝統食“寿司”のおかげで、フランスの伝統的クリスマス飾り“クレッシュ”にたどり着くことができました。フランスで生活すると、日本にいた時には真剣に考えたこともなかった「歴史ある日本」を強く意識させられることが多かったです。



（藤枝 知子）



7日の実行委員会で記念事業の概略が下記のとおり決まりました。

### ロット・エ・ガロンヌ県からの訪問団

メンバーはマリーたち13人の予定で、4月17日(火)から25日(水)まで来られます。日程はマリーからの要望も調整した結果。17日は午後からスケッチ展(4/17-22)開催中の北口ギャラリーで鑑賞と市民の会との交流。簡単な夕食のあとノボテル泊。18日(水)は、市長表敬、市内観光(和紙学習館、酒ミュージアムなど)夜はノボテルで、実行委員会主催の歓迎会(会費制)。19日(木)は、大谷美術館の展覧会鑑賞と和室での茶道体験、午後は香櫨園小学校で給食体験や授業参観、子どもたちとの交流会。ここまでの移動は西宮市のバスで行い、ノボテルに宿泊されます。20日(金)から24日(火)は各自で(多分シリルさんが同行)京都、奈良を訪問予定。この間に、来日メンバーの1人でミュッシュランガイドの一つ星を獲得されているマリオッタ氏の料理のデモンストレーションが、兵庫栄養専門学校で生徒さんを対象に行われます。そして24日(火)に兵庫栄養専門学校を会場に お借りして、マリオッタ氏の料理も含め、市民の会主催のお別れ会を開催。25日(水)の11時半に関空からフランスへ帰国。

18日の歓迎会や、香櫨園小学校の交流など複数の通訳が必要になる場面、お別れ会のスタッフ、場合によっては京都と奈良へのアテンドなど、市民の会のメンバーの協力が必要になってきます。また、お別れ会での人数制限の問題などがありますので、定例会で詳細が決まり次第お願いいたします。



### 市民の会訪仏団について

市主催の公式訪問団とは別枠で、10月6日(土)から13日(土)の日程で、市民の会会員20人程度を派遣します。もちろん現地では公式行事などに参加しますが、オリジナルな部分も加わる予定です。

以上が概略ですが、特に訪仏団についてはまず参加予定者を募りたいと思いますので、ファックスで1月10日(火)までに事務局まで参加希望をお知らせください。なお、気になる費用ですがまだ航空運賃も提示されていない時期ですので明確には言えませんが、参考までに10年前は35万円程度でした。(Fax:0798-32-8673)



## ご案内

### ラ・イン会 兵庫地区小品展

会期 : 平成24年1月5日(木)～10日(火)

会場 : ギャラリーほりかわ

神戸市中央区三宮町2丁目9-11 TEL 078-331-2485

出品者 : ラ・イン会兵庫在住会員28名

(NLeG会員の越智さんが、10号と20号の油彩画を2点出展予定)

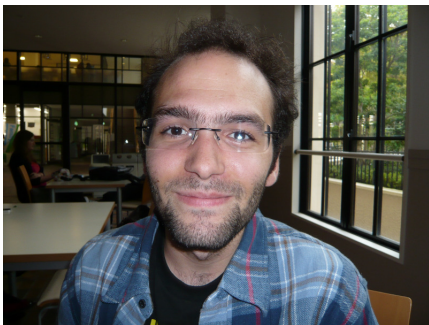
メリット : 日展常連(会員)矢野富美男氏及び渡辺 明氏ご両名の作品も観られますよ。





## Bonjour la France!

2012年の企画第1回目です。今回のゲストは、関西学院大学の留学生 Thomas Riondet さんです。今回は「リヨンの歴史」について発表してくれます。日本が大好きで、目下日本語を熱心に勉強中ですので日本に来られた動機や、来日の感想などもフランス語と日本語を交えて楽しくお話いただけたらと思います。少し早い目のご案内ですが、日本語とフランス語両方での質疑応答の時間も設けていますので、皆さん、ふるってご参加下さい。



こんにちは。

名前はトマです。21 さいです。私はリヨンの政治学院で勉強しています。

日本は9月11日に来ました。日本の歴史や料理がすきです。日本語が上手になって、日本の社会や文化を勉強するつもりです。

ほんとうにおもしろいけんです。

よろしくおねがいします。

**開催日：2012年2月25日(土)**

**時間：午後2時～午後3時30分**

**場所：フレンテ4F 国際交流協会会議室**

**会費：会員 500円 非会員 800円 (会員の紹介をうけた方に限ります)**

**※当日、お支払いください**

講演は日本語がメインですが、フランス語での質疑応答も歓迎します。定員15名

**【参加申込・問合せ】** NLEG フランス語部まで、できるだけメールで：

[bonjourlafrance@hotmail.co.jp](mailto:bonjourlafrance@hotmail.co.jp) まで

(非会員の方は、電話番号・紹介者の氏名もお願いします)

**【締切】 2月24日(金)**



## 忘年会 ～アラメゾン ジャンポール～

はじめまして！10月に入会した、多田亜樹です。すでに会員だったママの影響で、フランス語を習いたいと思い入ったのがきっかけです。

先日12月2日（金）「A LA MAISON JEAN-PAUL」で行われた忘年会にママと参加してきました。初めての参加だったのですが、お料理の多さにビックリ！ハムはもちろん、デザートまでお腹いっぱいいただきました（^-^）。美味しい料理とワインを堪能して幸せ一杯のひと時でした。お料理はフランスの郷土料理が中心ということもあり、昨年ママといったボジョレー村での旅行を思い出し懐かしくなりました。早くフランス語が話せるようになり、フランスに行きたい！とますます思いが強くなりました。

私ごとですが、忘年会にはフリアンドの谷口さん親子も参加されていて、私が高校生の時パンが大好きで初めてアルバイトをした場所がフリアンドでした！当時はなかなかパンの値段が覚えられず、おつりを間違えるなど……たくさん怒られました（笑）、10年という年月を経てこのような場所で会うことができ、お話ができてとても嬉しかったです。世界は広いようで狭いなあと改めて感じました。

最後は奥様と佐藤祥子先生のピアノ演奏と片山さんの美しいシャンソンを聴きながら、皆さんうっとりでした☆即興にもかかわらず3人のコラボは最高！息ぴったりでした(\*^\*)v

みんな様々な場所で、色々な事をしているけれど、「フランス」という一つのことで繋がっている。とてもステキだなあと思いました。人と人との出会いを大切に日々過ごしていきたいと思えます。皆さんこれからもよろしくお祈りします。



### ☆編集後記☆

早いもので、今年も残すところ後わずかとなりました。2011年は、未曾有の大地震が日本を襲い、その後も世界の各地で災害が続くなど、胸の痛む出来事が立て続けに起こりました。現在も不自由な生活を強いられている被災地の方々のことを思うと「明るく」という言葉は的外れな気がしますが、2012年は前向きな話題にあふれることを願ってやみません。

皆様、大切な人と素敵なクリスマスをお過ごしください。Joyeux Noël à vous !

(川合晶子)

**事務局：〒662-0911 西宮市池田町11-1 フレンテ西宮4階 秘書国際課内**  
**Tel:0798-35-3468 Fax:0798-32-8673 Home Page : <http://nleg.net> E-mail: [info@nleg.net](mailto:info@nleg.net)**